

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」
【三和区】意見交換の内容

開催日：令和 8 年 5 月 26 日（火）

会 場：三和コミュニティプラザ 多目的ホール

参加者：33 人

（参加者）

現在、健康維持のために、市民いこいの家の趣味の講座に通っています。専用駐車場が 35 台分あり、月曜日と水曜日、木曜日の週 3 日、100 人以上の方が利用しています。不足分は近くのホテル・アルファワン上越の駐車場をお借りするのですが、施設の道路を挟んだ反対側の線路脇に 50 台ぐらい停められる草地があり、民間の土地のようです。そこを市民いこいの家の専用駐車場として、お借りすることができないかご検討いただきたいと思います。

（三和区総合事務所長）

本日参加されている方の中で、市民いこいの家を利用しているという方がいらっしゃれば、駐車場の話で同様のご意見はありますか。

（参加者）

確かに狭いと感じます。絵画サークルの展示のために、年に 1 週間くらい行くのですが、駐車する場所がないと感じる時があるので、狭いのだと思います。

（市長）

市民いこいの家の駐車場については、いろいろお話を伺っています。不足した場合にお借りしている隣のホテル・アルファワン上越の駐車場は 78 台分あり、おおむねそれで充足していると考えていますが、足りない状況もあるとお聞きしましたので、状況を見ながら対応していきたいと思います。

（参加者）

先ほどインバウンドの誘客促進を含め観光振興について話がありましたが、上越妙高駅の整備を進めていただきたいと思います。一点目は、上越妙高駅の駅前通路が東西に通っている点です。東西に通路があるところに冬場は北西の風が吹きます。そうすると、その通路がトンネルのようになり、風が通り抜けず。通路が寒くて、風が強いのです。これは上越妙高駅だけの問題です。隣の糸魚川駅は入口にガラス戸があり、上越新幹線の湯沢駅から浦佐駅、長岡駅、燕三条駅、新潟駅はすべてドアが付いています。ドアがないのは上越妙高駅だけです。冬場のことを考えると、ぜひドアを付けていただきたい。1 階にドアを付ける必要はありません。2 階の通路口だけでもいいので、東西にドアをつけていただければ風が通り抜けず、それほど寒さを感じないのではないかと。ということが一つです。

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」 【三和区】意見交換の内容

もう一点は、2階の通路内にトイレを作っていただきたいという点です。今は1階の東口と西口にそれぞれありますが、2階にいる人には遠く、トイレのために1階まで降りなければならず、高齢者は非常に困っています。市長もトイレの整備を進めるとおっしゃっているのですが、上越妙高駅の2階通路にトイレを作っていただきたいと思います。

（参加者）

今のトイレ整備の件について、すぐにはなかなか難しいと思いますが、1階に降りていく人には非常に分かりにくいので、少なくとももう少し案内方法を工夫していただきたいと思います。文字を大きくするとか、図面化したものをもっと目に見えるところに掲示していただければ、ありがたいです。

（市長）

上越妙高駅のトイレの話は、確かに遠くてご不便だという声をよく聞きます。構造上すぐには対応できないかもしれませんが、2階通路の中央にある待合室・観光案内所の奥にトイレがあることはあります。例えばそこを開放するなどのアイデアはあるのですが、検討させていただきます。寒さの件も検討します。案内板の作成は可能ですから、JRと相談しながらできることはやりたいと思います。

余談ですが、通路に立ちそば屋を作ってほしいという要望もあり、あれば確かに便利だと思います。ラーメン屋さんがありますので、真面目に検討させていただきます。

（参加者）

地域協議会に所属しています。上越市所有の三和区弘沢地内の土地の利活用について、お願いと要望です。

合併前の三和村から上越市に引き継がれた土地に、かつて危険な廃棄物等が含まれており、乱開発の影響で下流の農地等に悪影響を及ぼした傾斜面の土地18ヘクタールがあります。これまでの経過で、当時あった建物や各種廃棄物がある程度撤去してはいるものの、一部にはおそらく危険なものやコンクリート殻片などが下部に残っていると見受けられます。合併から20年余りが経過しますが、その対応については未だに検討が全くなされていないのではないかと感じています。売れるような土地や建物については、処分等が進んでいると見聞きしています。非常に難しい問題だと思いますが、地域の問題でもあることから、地域住民の理解を含めて市として有効活用できるよう検討していただけたらと思います。可能であれば、まず市長の目で一度現地を見ていただきたいです。専門家の方々にこの土地をどう整備できるか、金額面も含めて検討していただきたいです。

平成21年3月に、当時の市長に対して地域協議会から答申を出しております。その答申は、付帯意見としてまとめられ、市として整備計画を検討するという文面で結ばれたものです。その後に行われたのは、平成26年に、上がっていく道の両側、約300メートル

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」 【三和区】意見交換の内容

ル、2ヘクタール程度の範囲に桜の木を植栽したことだけです。現在までに行われた対応策はそれだけです。自然環境の保全と地域の問題という点で、非常に課題のある土地でした。現在は、悪影響を及ぼすような瓦礫等は若干残っているようですが、そういった箇所はあまり見受けられないのではないかと思います。簡単にできる工夫や利活用の方策を検討し、年次ごとの計画案を提示していただければと思います。

（三和区総合事務所長）

当該地は約20年前に畜産事業者の倒産に伴う乱開発防止のために市が取得した土地で、丘陵地で景観に恵まれた広大な土地ですが、今のところ手つかずで保全管理されている状況です。当時は検討委員会などで、いろいろと検討された経緯があります。当時関わっていた方がいらっしゃればご意見等お聞きしたいと思います。

（参加者）

当時は確か、20人くらいが検討委員会に参加しており、四つのゾーンに分けて、花畑や樹林にするといった計画があったと記憶しています。かなり会合を重ねて提案はしましたが、当時の財政状況も踏まえて実現に至らなかったのが事実です。それ以降は活動しておりません。当該地は広大で、草がなければ見晴らしが良く、イベントもできるくらいの場所です。

（市長）

平成18年に利用検討委員会が設置され、平成21年に自然循環型の森林公園などに整備する利用計画書ができたと聞いています。ただ、その後、平成27年頃に土地の整備を行う前の段階で、産業廃棄物の撤去に多大な費用がかかることが判明し、当時で約9億円かかるということだったそうです。現在ではさらに多額の費用がかかる可能性があり、それを踏まえて計画を変更し、景観形成を目的とした桜の植栽を実施して現在に至ると聞いています。皆さんそれぞれの見方があるかもしれませんが、まず産業廃棄物の撤去の問題をよく考える必要があると思います。私からの質問ですが、どういうふうに使われたいですか。

（参加者）

まずはお金がかからない方法で、自然環境や子どもを含めた住民の意識改革という意味で、ボランティア的な活動の一端に組み入れるとしたら、桜よりもブナのような樹種を年次で植えて、落ちた葉や枝が堆肥になる形で土地を有効活用できるようにする、ということを個人的には考えています。できるだけ費用をかけず、住民が参画できるような形が望ましいです。

当該地の下部は道を挟んで西と東に分かれています。西側は高低差があり、東側は平坦

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」 【三和区】意見交換の内容

地です。産業廃棄物に関して、一番の問題は下にある池で、今はどう活用されているかわかりませんが、そこに汚染水が流れることで、地元の農業・農水関係には迷惑をかけたのではないかと思います。当時の産業廃棄物撤去費が9億円という話は地域協議会でも聞いています。その後、上っていく道の両側に桜並木をつくるという案があり、市の植栽事業が行われ、苗木が提供されて桜を何十本か植えたと聞いています。このあたりを改めて検討すべきだと考えます。もう一步踏み込んで、検討していただきたいです。

（参加者）

町内会長を務めています。地元から関心を持っていただいていることに感謝申し上げます。廃棄物の話ばかり出て、皆さん誤解されている部分もあるようです。毎年、市の方で、雨水の少ない時期に、2つのため池の水質調査をずっとやっていただいております。その結果は、特に問題があるという報告はいただいております。調査結果はここ20年間、町内会長に届けていただいております。この事案に携わった方はおそらくご存じだと思いますが、本日集まっている約30名の皆さんは多分知らない話で、廃棄物の話だけが頭に残って今日帰られると、私たちやその地域の農家、田んぼを作っている人たちにとって非常によろしくない話になると思っております。開発もいいとは思いますが、草地になっているので、雨が降ると水の流れが非常に速くなります。それに伴って土の流出も多く、ため池が浅くなっているのも事実です。開発をするのであれば、その前にそうしたものを防止する横断的な堰などを設けてほしいという要望もありますが、現実的にはなかなか難しい面もあると思います。

なりわいと観光は両立させるのが難しい部分もありますが、うまく使うためのアイデアを出すのが良いと思います。ただ、あの道は国道253号につながる浦川原区の山本ぶどう園を通る道路で、秋になると車が多く通ります。全部の区間の草刈りは難しいと思いますし、みんな平等というのも大事でしょうけれど、そういう観光に資するような道路はもう少し手を入れて、市の方で管理や強化をしていただければ、そこからがまず始まりだと思います。今の時期、上がってみると田植えの風景の水面や、直江津の方に見える夕日が綺麗に見える場所もあるので、そういうところが自然の一つの売りになるのかなとも考えます。無理に取ってつけたような開発をしても一時的にはいいかもしれませんが、持続は難しいように思いますので、その中で知恵を出しながら良い方法を導いていただければと思います。地元で草刈りをすればいいのかもしれませんが、世帯数も少なく、なかなかできないこともあるので、ご理解いただければと思います。

（市長）

まず地元でよく話し合ってくださいことが大事だと思います。地域協議会なり、あるいは自治会なりでまとまって「こうやろう」ということになれば、市もサポートしますし、必要であれば現地に伺いたいと思います。まずご意見をまとめていただくことが大事で、

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」 【三和区】意見交換の内容

その後で私どももできることを考えたいと思います。

（三和区総合事務所長）

町内会長から、枝木が市道にはみ出していて、車が通るときに危ないというお話もいただいておりますので、我々もその点は常に注意し、監視しながら、必要に応じてきちんと整備してまいりたいと考えております。

（参加者）

公共施設の廃止とそれに伴う再利用についてお尋ねします。

令和 8 年 3 月の新道区地域協議会で、芙蓉荘は数年以内に解体し、跡地の再利用については今後協議していきたいという説明がありました。古くなった施設は利用できなくなれば解体して土地の再利用に向けて取り組む、と理解しました。13 区に残されている、使用されていない公共施設は、今後どのようにされていくのでしょうか。サウンディング型市場調査を行っても利用者がいない場合、速やかに除却するべきだと考えます。三和区にはひなた荘、旧上杉小学校、旧美守小学校が存在しています。人口減少とともに空き家が増え、中山間地区にある施設は放置しても目立たないためそのままの状態で放置されている現状です。そういった放置された施設の現状を、市としてどのように解決していくのか、具体的に説明をお願いします。「放置された経過年数が長いものから順次、除却をしていくが、予算の都合があるので、こういう形にしていきたい」という基準をまず設定して、計画的に取り組んでいただければと思います。

（三和区総合事務所長）

ひなた荘は平成 21 年頃に廃止となり、そのまま残っているという状況です。山の中にある建物なので、どなたにも迷惑がかかるということではないのですが、そのままになっているというのは事実です。

（市長）

ご意見いただいたとおり、廃止して再利用できないものは原則として解体することになります。ただし、予算が許す限り、できるだけ早めに進める、ということです。今後、統合等で使われなくなる学校も出てきますし、総合事務所周辺の保健センターやコミュニティセンターなども、時の流れで空いていくことが考えられます。民間業者に利用していただければ、それに越したことはありません。例えば、旧安塚中学校では、今年度クルマエビの養殖が始まります。冒頭の説明で申し上げた多世代交流プレイスも、柿崎区と板倉区の既存の建物を使おうとしています。柿崎区は福祉センターで、板倉区は保育園にするかコミュニティプラザにするか検討しているところです。いろいろな利用の仕方があると思うので、できるだけ活用していきたいと思っています。

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」 【三和区】意見交換の内容

また、雑談になりますが、市役所の1階のホールですが、少し明るくしてもらって、丸テーブルを置きました。丸テーブルの出どころは旧安塚中学校です。旧安塚中学校のテーブルや机は、学びの多様化の諏訪中学校でも利用されています。施設はできる限り利用していきたいと思っています。

（参加者）

高田平野に東縁断層帯と西縁断層帯、二本の大きな断層帯があります。内閣府の地震調査推進本部が日本全国を調べており、危険度の高い順に番号を付けていますが、206ある断層帯の中で、東縁断層帯は13番目に危険度が高いとされており、国として危険な断層帯であると位置づけています。もう一点、西縁断層帯は江戸時代から一度動いているので、ほぼゼロということになっているのですが、東縁断層帯がどこにあるかという、三和区の井ノ口交差点から牧区、板倉区、妙高市の方に延びていて、井ノ口あたりから下の方は保育園、それから中学校の真下を通して、もう廃校になりましたが旧美守小学校の方へ抜けているという状態です。国が指摘している割にはあまり知られていないのが逆に恐ろしく、あまり脅かすのもよくないのですが、皆さんに知っていただく必要があるし、私はそれを皆さんに伝えることが大切だと思っています。市長がトイレの話などをされていましたが、子育てセンターや福祉、少子高齢化、人口減少、観光、産業など、上越市には重要課題がたくさんあります。しかし、その一方で、例えば大規模災害が起きれば、そうした課題は全部吹き飛んでしまいます。復興、復興、復興ということになります。私は3.11の発災後、一度現地に行き、その後10年経ってからNP0の仕事で再び現地に行きました。三陸沿岸を回ってきたのですが、高速道路のように立派な道路が整備され、港の堤防がしっかり作られていました。ところが、住宅地を見ると空き家が多く、人が戻ってきていない場所もありました。能登半島もこれから人口の減少が懸念されています。災害は防げませんが、ちゃんと準備しておけばいいのではないかと思います。内閣府でも災害予防の強化や、災害に強い国づくり、まちづくりを重点に進めるよう言っていますので、ぜひ上越市もそういう考えで、そうなる前に準備をしてもらえればありがたいと思います。

そしてもう一点、提案ですが、全部を市に任せるのではなく、我々一般市民も参加していかなければいけないと思っています。市民の声をもとに、学識経験者などが一緒になって、そういう問題をどうするかを考える場が必要だと考えています。そういう場を行政と市民が一緒に作り、災害にどう立ち向かうかを考える機会を設けてほしいと思います。

（三和区総合事務所長）

高田平野の断層帯は危険性があるけれども、知らない人が多いということで、正しく伝えて、正しく恐れていただく必要があるというご意見でした。専門性の高いご意見でしたが、ほかに関連してご意見があればお聞きしたいと思います。

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」
【三和区】意見交換の内容

（参加者）

防災関係の意見です。糸魚川市において何年か前に大火災があり、その関連で地域の人が消火栓の使用による防災訓練をやっているという記事を新聞で見ました。上越市では消防団以外は消火栓を使ってはいけないというルールがあります。大規模な火災や地震が起きたときに、消防団が全てに対応できるかという点、おそらくできないと思います。三和区には、消防団に所属していたOBがたくさんいるので、消火栓の使用等には慣れています。そういったことを踏まえ、地域で消火活動ができるようになればいいと考えています。

（市長）

地震については、上越市防災会議というものが従来からあります。その会議で地域の防災計画や水防計画を作成しています。ご意見にあった東縁断層帯は防災計画に入っています。令和4年に県が公表した新たな地震の被害想定には東縁断層帯は含まれていませんでした。西の方は新たにF41というのが上越糸魚川の沖、海の方で危険だとして新たに入りました。そのF41と西縁断層帯は含まれていましたが、東縁断層帯は含まれていませんでした。しかし上越市の計画では東縁断層帯もきちんと含んで対応を進めており、いろいろな方の知見をいただきながら防災対策を進めていきたいと思ひますし、市民の皆さんの意識を高めるという運動も周知徹底していきたいと思ひております。

（参加者）

私は町内会長を務めています。消防団が統廃合されて、一つの部の活動範囲が広範囲になってきています。統合されても数名の団員で活動している状態で、消防団が初期消火に関わることは難しい状況になっています。そうになると、自主防災組織、各自治会にできている組織や消防団OBが、自分の家は自分で守るという形で消火栓を使用し、10年くらい前までは防災訓練も含めて女性も筒先を持ち、消防団の指導の下で防災訓練を行っていました。ただ、7、8年前に上越市では消防団以外は消火栓を使用してはいけないという話になりました。私どもの消火栓には器具庫がちゃんと設置してあり、町内で器具を管理している状態です。その中でそれを使えないという住民の不満がかなり大きいことと、災害の時に誰が本当に対応できるのかという点があります。消火栓は、一般の人が扱ってもよいことになっており、消防団でなければならないという規定にはなっていません。上越市だけそういう規定になっているのは問題だと思います。糸魚川市は大火後に、口径40ミリだったかと思いますが、細いものに減圧されて、区画された街中の消火栓の使用を地域住民ができるようにしています。例えば、元消防団の人たちが年1回訓練を受けて消火栓を扱えるようにし、自主防災組織の中で消火栓を運用すれば、初期消火にすぐ対応できると思ひます。常備消防もしくは消防団以外は消火栓に触れてはいけないという規定はぜひ変えていただきたいです。せつかくあるものが使えない状況になっているので、ご理解いた

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」
【三和区】意見交換の内容

だければと思います。

（参加者）

消火栓を使ってはいけない件については、私も前市長に意見として出しましたが、回答としては承諾されず、これもおかしいと思っています。阪神・淡路大震災の発災時、消防や警察、救急車などの公共機関がどれだけ役に立ったかという、97 パーセントは役に立たなかったと言われていました。残りの数パーセント、3～5 パーセントは公共機関が対応し、それ以外は市民が火災の初期消火や救出を行ったということです。ですから、一般市民の防災力を高めていくべきだと考えています。市民の皆さんが参加して、上越市の防災について皆で取り組めるようなシステムにしていいただければありがたいと思います。

（参加者）

私も地域協議会委員ですが、前々から消火栓の話を聞くたびに使えた方がいいのかなとは思っていました。ただ、自宅の目の前に消火栓があるのですが、もし使えるようになったときに子どもがいたずらをしないか、どなたでも使えることで初期消火にきちんと使えるならいいのですが、的が外れて隣の家の窓ガラスを壊したときの責任は誰が取るのかなど、そういう怖さや心配はあります。

（市長）

令和 7 年 3 月に市議会の総務常任委員会で、吉川区地域協議会から消火栓の使用についての要請、意見書が出されており、当時「検討します」と答えています。現在、真剣に検討している状況で、早いうちに市としての態度を決めたいと思っています。自分たちの地域は自分たちで守る、という気持ちは大切にしたい一方で、考慮すべき要件もあります。仮に訓練をしていない人が使って大丈夫か、訓練を受けた人だけにするのか、消防署が到着した際の引き継ぎ、ホースのサイズを何ミリにするのかなど、その辺の条件は守っていただいた方がいいのではないかとことも検討しています。いろいろご意見をいただいているので、そんなに長い時間をかけずに市の態度を決めたいと思っています。

（参加者）

子どもが今小学校 1 年生なのですが、もうちょっと小さい頃に、オーレンプラザのこどもセンターによく連れて行っていました。ただ家からだと少し遠くて、着いた頃に寝てしまっ、て、いざ遊ばせようと思ったら、機嫌が悪くて遊べなかったということもありました。公園などにはありますが、熱中症の心配もあるので、もう少し近いところに低学年ぐらいの子どもが遊べる室内のアスレチック施設があると助かります。

（参加者）

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」 【三和区】意見交換の内容

孫が帰ってきてても雨や風が強いと遊び場がなくて困ります。息子は柏崎市に住んでおり、上越市に帰省しても「明日は雨だから（遊び場がある）柏崎に行けばいい」と言われると悔しいです。できれば地元に戻ってきてほしいと思いますし、そういう状況が子育ての場を選ぶ基準になるのではないかと考えます。最近は富山県朝日町などでも、すごい施設がたくさんあります。子どもたちの遊び場は検索するとすぐ出てくるので、今日はあっちに行こうか、ここに行こうかという形で選んでいます。上越市に「選んでもらえる場所」になるようなところがあればいいなと思います。

（参加者）

多世代交流プレイスの開設ということで、市長の話によれば今年度10月オープン予定でしょうか。どんな施設になるのかワクワクして、ぜひ見に行きたいと思っています。私が携わる活動も今の三和区の保健センターを利用させていただいて、多世代が集えるような場所であればいいですし、事業であればいいという理想を持っています。多世代交流プレイスの開設場所として柿崎区と板倉区がピックアップされていますが、三和区はいつなのでしょう。先ほどの市長のお話ですと手を挙げてほしいということでしたので、ぜひその先進的な2か所がどんな状態なのか教えていただけませんかでしょうか。

（参加者）

東京都板橋区にある高島平という場所で、近いようなことを行っており、学校がなくなった場所でも遊び場が作れるという事例があるそうです。三和区は遊ぶ場所が少なく、5分、10分で行けるところがないのが現状です。高島平という場所で行っているのが、水耕栽培や田んぼ、畑などでいろいろな作物を作ったり、各教室でゲームを楽しんだりといったことです。広い体育館があるので、ドローンで遊べたり、各教室に喫茶コーナーのような場所があったり、そういった事例を何か所か見せてもらいました。子どもも高齢者も障害のある人も利用できる場所として廃校や使っていない施設を活用していただければと思います。

（参加者）

10月に板倉区に赤ちゃんから高齢者まで交流できる施設を作るということで、私なりの案があります。元宮島小学校を使って人生学校を作りたいというのが私の最後の夢です。

消火栓の話ですが、地域の住民が消火栓を使えなくて大火事になったり、家が全焼したりした事例が何件くらいあったのかという観点を忘れずに検討する必要があると思います。

（市長）

最初の説明が不足していたかもしれませんが、多世代交流プレイスは、まさに皆さんが

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」 【三和区】意見交換の内容

要望されたことを実現したいということです。子育て世代や児童・生徒が集まって遊べる場、ただし、赤ちゃんと小学生や中学生は遊ぶ場を分ける必要があると思います。室内でしっかり遊べる広いスペースを確保し、高齢者もそこでいろんな生き甲斐を見つけてほしいと思います。今、柿崎区の多世代交流プレイスでどんなことをするか検討しています。地元の方に立ち上げていただいて、運営していただくことにしています。いろんなアイデアをいただいております、例えば喫茶店をやってもいいし、図書室を置いてもいいし、部屋にゲームを置いてもいいでしょうし、そういう混ぜこぜの施設にしたいのです。今年度は柿崎区と板倉区でやります。先ほども言いましたが、手を挙げてください。地元が盛り上がっていただければそこでやりたいと思います。施設はいろんな場所が考えられますが、新しく作ることは考えていません。中学校などいろんな場所を活用していきたいと考えています。総合事務所近辺の施設が空けば、それらを積極的に利用していきたいと思っています。アイデアはいくらでも必要な時なので、皆さんもいろんなアイデアを寄せていただいて、使いやすい施設を考えていただければいいと思います。運営は、まさに地元の方から中心にやっていただきますが、市が何もやりません、という意味ではなく、伴走型で一緒にやらせていただくことを考えています。

（参加者）

地域協議会に関わっており、今日お集まりの住民の皆さんとも地域づくり、特に地域活性化ということでいろいろなミーティングを重ねてきました。その中でも私が大切にしていることは、行政と住民の程よい関係性をいかに築くか、これにかかっているのではないかと、今日のお話を聞きながら確信しました。そして、今我々がやることは何かというと、みんなそれぞれ得意なものを持っています。そういう得意なものをこの地域に活かしていく、そんな仕組みづくりも手をかけ始めています。

そして、今のお話を聞いて、早めに三和区に多世代交流プレイスを立ち上げるために動き始めたいと思いました。そのためには、我々が住民の方と、このように話し合う懇親会や茶話会をどんどん行えば、もっと楽しい笑顔が出る会になっていくのではないかと思います。三和区で4月17日に福祉懇談会があり、多くの方から色々な意見を受けました。意見はほとんどが「何とかしてほしい」というものでした。何とかしてほしいと言われたからには、住民として我々ができることをやらなければいけません。とにかく話し合いを始め、そして絆を深めることに尽きると思います。本当に今日はこのような時間をとっていただき、ありがとうございました。

（三和区総合事務所長）

地域協議会では地域コミュニティを維持するための仕組みづくりを検討している中で、こういったサロンのようなものを地域に広めようという取組を進められていることからご意見をいただいたものと思います。

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」
【三和区】意見交換の内容

（参加者）

多世代交流プレイスは、市長が私たち 13 区に目を向けてくださったのだと思い、すごく嬉しかったのと同時に、もし失敗したらという心配も正直あります。例えば、このコミュニティプラザも地域住民が集う場として作られたと思いますし、公民館もありますが、公民館が今どのくらい機能しているかという、かつての勢いはないのではないかと思います。同じように、どんな施設になるのかまだ不明ですが、多世代交流プレイスを作って本当に人が集まるのかという疑問があります。運営は地域の人に頑張ってもらいたいというお話でしたが、頼りになる職員から常駐してもらわないと、行ったけれど人がいない、といったことになり、だんだん人は行かなくなってしまうと思います。公民館でやっている講座と似たようなことをそこでやれば、人の奪い合いになってしまいます。そういうことがすごく心配です。市長はしっかり考えておられると思うので、その心配は大丈夫だと思わせてくれるようなお答えがあったらお願いします。

（参加者）

個人的な意見ですが、多世代交流プレイスを成功させるには住民参加型にしないとうまくいかないと思います。トップダウンではうまくいきません。住民参加型というのは具体的にどういうことかという、小学生以上から高齢者まで、多世代交流プレイスをこういう形で展開したいという希望や意見を持っている人たちに、毎週末に集まってもらい、グループミーティングをしてもらうことです。私は個人的に、その施設を居心地のいい第二の自宅にしたいのです。いつ行っても美味しいコーヒーが飲めるような食堂も常設すべきだと思います。合唱の教室や大正琴の練習会場、講座など、地域住民の発想でいろいろなことができると思います。来て楽しかったという印象を持てれば、次第に利用者も増えていくのではないかと思います。

（市長）

皆さんの多世代交流プレイスに対する意見はまさに私が考えているものです。スタッフは保育士なり保健師を最低限配置します。それから、運営については、市の職員になるのか、委託した運営団体になるのか、必ずいなければなりませんのでその点に対応します。アイデアはいろいろいただきたいと思います。住民主体というのは、まさに私の考えと同じで、それになんら反対はありません。皆さんから意見を出してもらい、試行錯誤で進めていきたいと思っています。